

富士重忠と菅谷館跡

富士重忠は、長寛二年（一一六四年）、富士荘司重能を父とし、相模の名族三浦義明の娘を母として、武蔵国富士（現大里郡川本町富士）に生まれました。

治承四年（一一八〇）、源頼朝が伊豆石橋山に挙兵したとき、父の重能が平氏に仕えていたため、弱冠十七歳の重忠も平氏に属し源氏方の三浦氏を攻めました。その後間もなく頼朝に仕え、鎌倉入りや富士川の戦いには先陣をつとめ、宇治川や一の谷の合戦では、かすかすの手柄をたてました。また、児玉党と丹党との争いを調停するなど、武蔵武士の代表的人物として人々の信望を集め頼朝からも厚く信頼されていました。

頼朝の死後も和田義盛らとともに、二代將軍源頼朝をたすけて政治に参加しましたが、北条氏に謀殺されました。四十二歳でした。鎌倉時代の史書『吾妻鏡』によると、元久二年（一二〇五）六月十九日、「鎌倉に異変あり」との急報に接した重忠は、わずか百三十四騎の部下を率い「小（男）袋郡菅谷館」を出発し、同月二十二日、二俣川（現横浜）で雲霞のごとき北条勢に囲まれ、部下とともに討たれたとあります。

嵐山町菅谷にあるこの城郭が、その「菅谷館」ではないかと古くから言われてきました。城郭の西には鎌倉へ通じる街道跡が残されており、この城郭のどこかに重忠の館があったことも充分考えられます。

現在この城郭は、縄張りや土塁・空堀の構造から推定して、戦国時代末頃に最終的に改築されたものと考えられています。

埼玉県

作品番号：41301082

作品タイトル：菅谷館 案内板

作家：小川 喜一郎

キャプション：国史跡 菅谷館

コレクション：OPO

ソース：

撮影地：埼玉 嵐山町

撮影年月日：2013/11/27

学術名：

クレジット表記：(c)kiichiro ogawa / Artefactory

モデルリリース：なし

プロパティリリース：なし

ピクセル数：3974px × 2980px

印刷サイズ：28.8cm × 21.6cm

データサイズ：8.4MByte

ファイル形式：JPEG